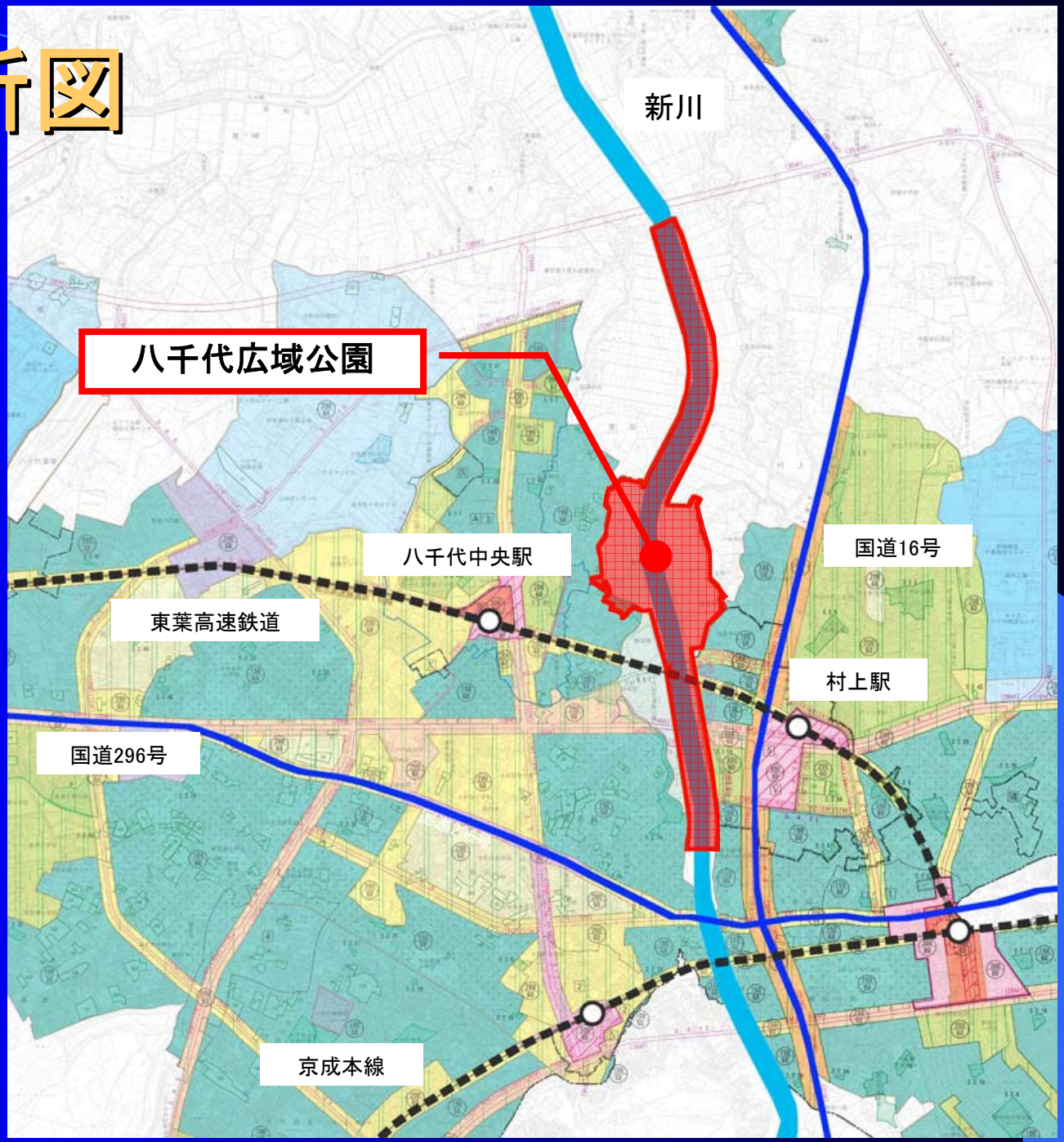
千葉県立　八千代広域公園
国庫補助事業再評価

千葉県県土整備部公園緑地課

県立都市公園配置図

柏の葉公園
北総花の丘公園
東葛飾北部
八千代広域公園
湾岸
印旛
香取・東総
幕張海浜公園
千葉市
蓮沼海浜公園
青葉の森公園
千葉東部
長生の森公園
かずさ・臨海
富津公園
南房総

事業箇所図



計画見直しの経緯

- 平成16年度　県立中央図書館の建設の見直し
  千葉県土木部･都市部所管国庫補助事業評価監視委員会

- 平成17年度　八千代市との合同検討会議
  ～平成18年度　⇒『新たな公園計画を策定すること』で合意

- 平成19年度　基本計画見直し ・ パブリックコメント実施

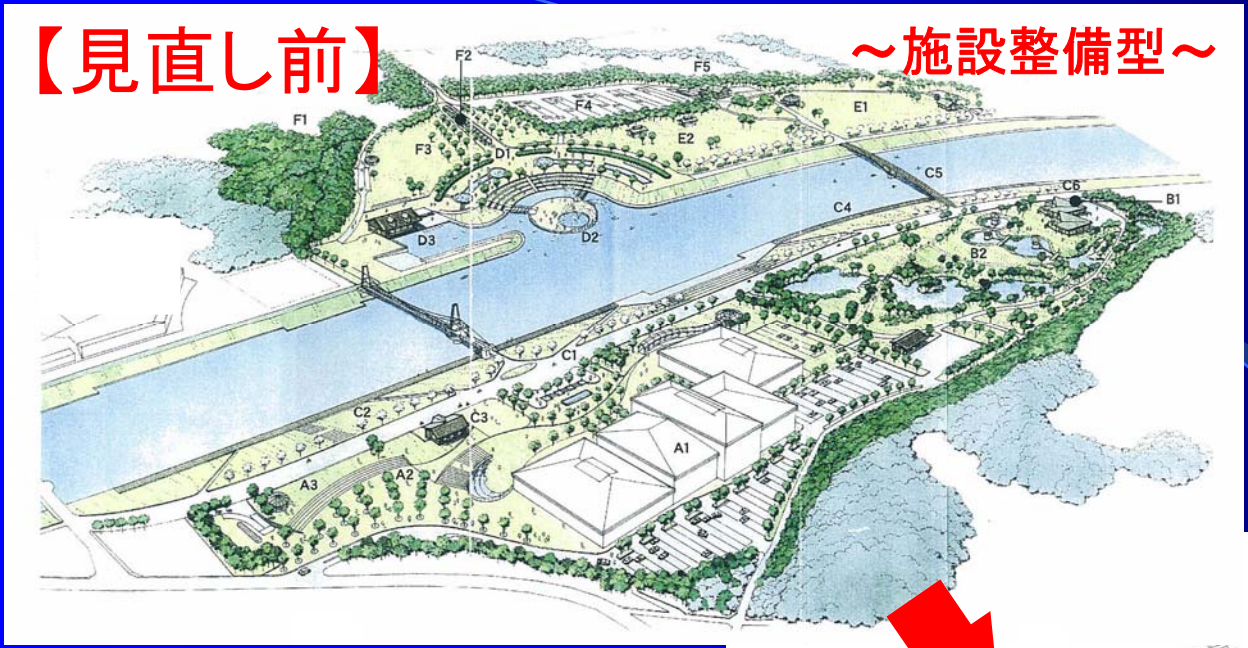
- 平成20年度　基本設計見直し ・ ワークショップ実施
  事業認可変更

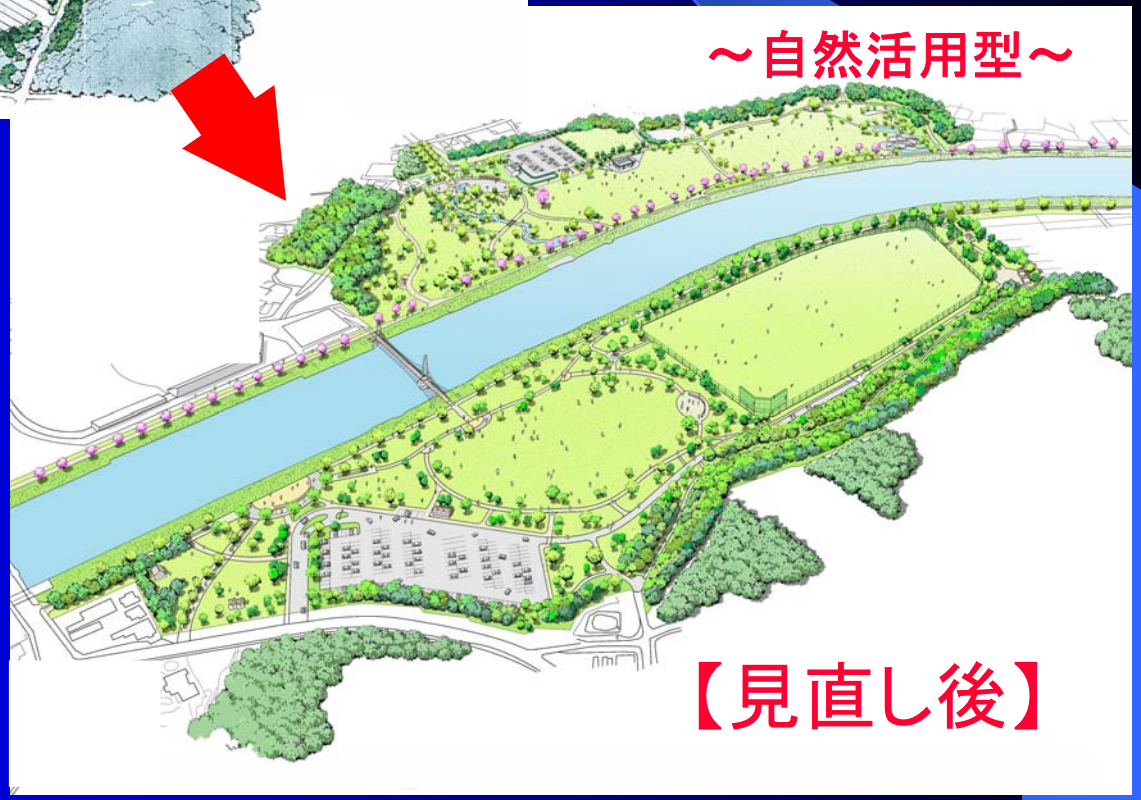
計画見直しの方針

１　斜面緑地や川沿いの空間の広がり等、既存の景観や自然環境を活用する

２　計画への県民意見の反映や県民参加による公園づくりを行う

３　事業費の縮減と早期利用のため、整備内容を施設整備型から自然活用型へ転換する


【見直し前】
～施設整備型～
F1
F2
F3
F4
F5
E1
E2
D1
D2
D3
C1
C2
C3
C4
C5
C6
B1
B2
A1
A2
A3


～自然活用型～
【見直し後】

新川の水辺と遊歩道　・　斜面緑地

遊歩道

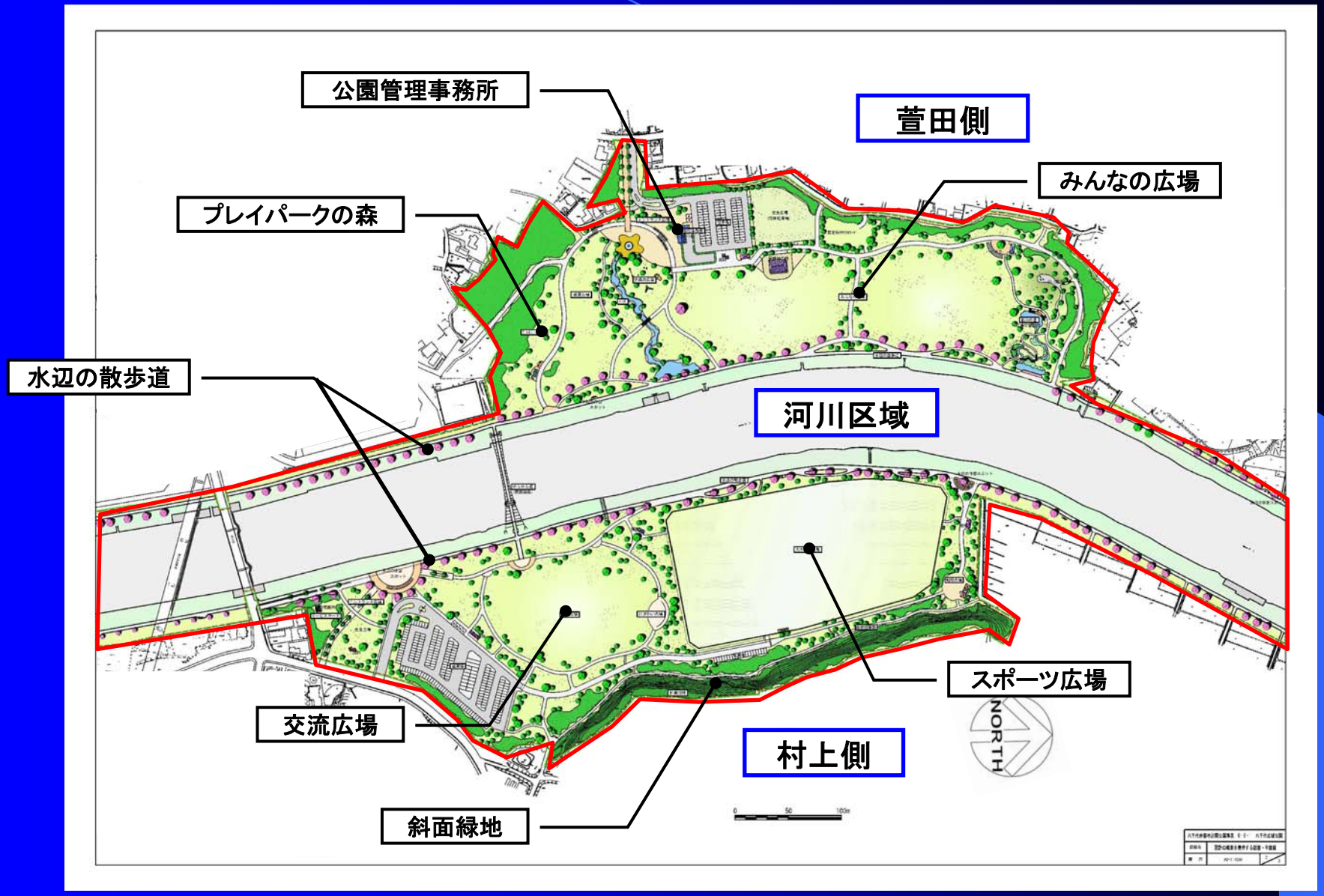
計画見直しの概要

		見直し前	見直し後
事業期間		平成7年～20年	平成7年～30年
事業費	用地費	111億円	101億円
	施設費 ※1	374億円 ※2	34億円
	総事業費	485億円	135億円

350億円の縮減

※1　施設費は、用地事務費、測量・試験費、工事費、工事事務費による
※2　見直し前の施設費には、図書館建設費210億円も含む

整備計画


公園管理事務所
萱田側
みんなの広場
プレイパークの森
水辺の散歩道
河川区域
スポーツ広場
交流広場
村上側
斜面緑地
NORTH

費用対効果分析について

◎前回との変更点

『大規模公園費用対効果分析手法マニュアル』が改訂された。

※平成16年2月、平成19年6月

↓

費用（C）および便益（B）の算出方法が大きく変化

↓

便益(B)：	直接利用価値	旅行費用法の計測モデルが変更
	間接利用価値	代替法　→ 効用関数法

費用対効果の算出

費用及び便益算出の諸元

割　引　率	：	4%
基　準　年	：	平成21年度
プロジェクトライフ	：	部分供用後50年間

単年度費用の算出
- 用地費
- 施設費
- 維持管理費

↓

総費用の現在価値
（C）

↓

単年度便益の算出
- 直接利用価値
- 間接利用価値

↓

総便益の現在価値
（B）

↓

費用対効果分析　（B／C）

費用対効果分析における便益

便益（B） ＝ 直接利用価値 ＋ 間接利用価値

１　直接利用価値　（旅行費用法）

●県民が直接的に公園を利用することによって生じる価値

２　間接利用価値　（効用関数法）

●県民が間接的に公園を利用することによって生じる価値

・都市環境の維持・改善
・景観の向上
・都市防災

→ 環境価値

→ 防災価値

費用便益比分析結果

費用（現在価値）		便益（現在価値）		
用地費	125億円	直接利用		289億円
施設費	29億円	間接利用	環境	113億円
維持管理費	9億円		防災	147億円
合計（C）	163億円	合計（B）		549億円

$$B/C = \frac{549億円}{163億円} = 3.38$$

対応方針（案）

継　続

【理由】

1　社会経済状況や県民ニーズ等を考慮して、計画を見直した。

2　急速な都市化に伴い周辺の人口が増大し、公園の必要性が求められている。

3　周辺が市街化する中で、貴重なオープンスペースとなる。

4　希少で魅力ある自然が残されており、これらを保全していくことが必要である。

5　多様なレクリエーションニーズに対応する場としての必要性が高い。

6　「千葉県広域緑地計画」において、水と緑の軸を保全する広域公園として、また、八千代市の「緑の基本計画」において、緑の骨格上の広域レクリエーション拠点として位置づけられている。

↓

整備の必要性は高い